

令和3年度第2回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和3年8月31日（火）午後6時から午後7時50分まで
場所	尼崎市中央北生涯学習プラザ 3階小ホール
出席者	(委員) 足立委員、渥美委員、江田委員、大槻委員、田井委員、田中委員、中西委員、久委員、松岡委員、松村委員

■議事内容

1 開会にあたって

傍聴者の確認

傍聴1名

2 地域課のR2取組事例について（意見交換：ワールドカフェ形式）

（委員Aテーブル）

（1）ポイントの説明 3地域（南部組 中央地域課、小田地域課、大庄地域課）

中央地域課、小田地域課、大庄地域課から各地域課の資料1「令和2年度 生涯学習に関する取組」、資料2「令和2年度 生涯学習に関する取組 振り返りシート」、資料3「着眼点シート」についてのポイント説明を各地域課5分間実施した

（2）質問3地域

（3）助言・発散3地域

【参考】各地域課事例

中央地域課 「竹谷小学校区いどばた会議」の設置

小田地域課 「遊ぼう！学ぼう！小田夏祭り」（県立尼崎小田高等学校との協働事例）

大庄地域課 新たな地域拠点「大庄元気むら」との連携・支援

立花地域課 インクルーシブ講座（障がいのある人もない人もともに学ぶ場）の開催とその後のつながりづくり

武庫地域課 武庫西生涯学習プラザを活用した学校でも家でもない第3の居場所づくり
（よっといで、こすも ☘プラザ、ティーンズ MUKO カフェ）

園田地域課 <現役世代を中心に生涯学習プラザの利用者の拡大を図る取組>
（「園田で集い、学び、つながる秋！プラザで学びWeek」事業）

○委員

「竹谷小学校区いどばた会議」について、フェイスブックやインスタグラムは事後広報だったのか。また、反響はどうだったか。

▲課長（中央地域課）

現在はメンバーが決まった会議なので、実施後に広報をしている。こういった広報をすることで、ほかの小学校地域でも同じような取り組みをしようという動きが始まっている。そういう点から言うと、こういったフェイスブックやインスタグラムの広報が次に繋がっている。

○委員

具体的には話し合いのテーマや方法、ファシリテーションはどのようにしたのか。

▲課長（中央地域課）

第1回目の竹谷小学校地区いどばた会議は、あまり堅苦しい話はせず、基本的には顔合わせと、地域での活動をみなさんに分かりやすく説明するという内容で実施した。方法としてはボードを使って活動を説明していった。ファシリテーションの面については、コーディネーターの力を借りて実施した。

○委員

若い世代というのは具体的にはどのような年代をターゲットにしているのか

▲課長（中央地域課）

若い世代については、小学生や中学生の子どもを持つ親や、子どもがいない20代や30代をターゲットに考えていたが、実際にはアプローチが難しかったというのが実感である。場所は、関係者が集まりやすい場所として貴布禰神社で実施した。

○委員

「遊ぼう！学ぼう！小田夏祭り」、「大庄元気むら」について、実施後にどのような振り返りをしているか教えてほしい。

▲課長（小田地域課）

「遊ぼう！学ぼう！小田夏祭り」は今年が実施2年目になるが、振り返りとしては、地域課の職員が入って誘導方法などの運営方法の振り返りを実施した。高校生達は、クイズの問題の難易度を下げるなどを学校で振り返りをした。

▲課長（大庄地域課）

「大庄元気むら」は学校側と振り返りをやったが、「良かった」という意見が出たものの、今回が初めてであるということもあって、反省点や来年につながる話にはならなかった。

○委員

学校と連携する場合、高校の先生との関わりが重要となってくる。誰が振り返るのか、誰に振り返ってもらう必要があるのか。

▲課長（大庄地域課）

先生との振り返りはできた。今回、3年生の生徒会が中心となって取り組んだが、それを次につないでいくことが必要である。

○委員

高校生の地域貢献への意識や、地域のことを大切にするというふるさと愛、などの学びの指標を先生は持っている。その指標の効果が明確に出ると、高校は継続したいとなる。

▲課長（大庄地域課）

防災の取組につなげる意識づくり、それと、委員指摘のことを意識して取り組んでいきたい。

◆市長

高校に熱心な先生がいらっしゃるのが絶対条件。属人的なところがある。

○委員

地域が大事だと思う先生を育てたのも尼崎だということ。若い先生もそういうものかと思ってくれる。

▲課長（大庄地域課）

フォトコンテストの申込について高校に声掛けをしたところ、高校生が賞を受賞し、ホームページなどに掲載していただいた。

▲課長（小田地域課）

小田高校の先生には助けられている。次の先生にも引き継いでもらっているし、先輩のやったことより違うことに発展させようという機運を先生が作ってくれている。去年はお年寄りの見守り、今年是要支援者の名簿を提供してもらいたいという話になっている。

○委員

次第2の③の助言・発散をしていく。

▲課長（中央地域課）

「竹谷小学校地区いどばた会議」について、事務局機能を、継続して続けていこうと思っているが、事務局から集まりましょうと声をかけて集まるのではなく、地域の方から相談事があるから、集まりたい等の自然な流れで集まっていくような形にシフトしていきたいと考えている。

○委員

地域の方に課題に気づいてもらうことが大事であり、そういった場をどう作っていくかというところである。案外困りごとに気づいていないものである。

○委員

私は小学校地域学校協働本部のコーディネーターをしている。地域の方に会いに行くことが大切であると思っており、地域担当職員の方といろいろな人の所に行くようにしている。行った際には、私を介して話をするのではなく、そこで地域の方と直接話すようにしたらいと思う。また、連協の区域もあるので、隣の校区の担当とも動くことが必要である。地域により活発・活発でないもあるし、職員も得意・不得意もあるので、一緒に動く方がよいと感じている。

○委員

いどばた会議のようなものは全国各地でされているが、うまくいっていると思うのは、数と軽さ。必ず出席しなければいけないとなるとしんどさがある。

◆市長

企画者が輪番制になると、いろんなカラーがあっておもしろいかもしれない。真面目にやるとか、今はコロナなので難しいが、食べながらでやるとか方法もある。

○委員

「竹谷小学校地区いどばた会議」を実施することで何が生まれるかという、ミッションが明確に言えるかどうか。例えば高齢化が進んでいてつながりがないと皆さんが言っているのであれば、新しいつながりづくりをその地域内にすすめていくためには、「いどばた会議」しかないでしょう！と明確に言えると納得してくれるかもしれない。社協が得意な要支援者や障がい者が中心になる会議もあるだろうし、地域に強い嫌悪を持っている方の会議もあるだろう。

(4) ポイントの説明 3地域（北部組 立花地域課、武庫地域課、園田地域課）

立花地域課、武庫地域課、園田地域課から各地域課の資料1「令和2年度 生涯学習に関する取組」、資料2「令和2年度 生涯学習に関する取組 振り返りシート」、資料3「着眼点シート」についてのポイント説明を各地域課5分間実施した

(5) 質問3地域

(6) 助言・発散3地域

○委員

「武庫西生涯学習プラザを活用した学校でも家でもない第3の居場所づくり」について、課題を持っている子どもへの関わりは、地域課のみなのか、社協事務局も入っての関わりなのか。

▲課長（武庫地域課）

社協事務局も一緒に取り組んでいる。職員には研修もしたが、職員の何気ない会話で配慮が足りていないところもあった。

○委員

課題を持っている子どもの対応は、スクール・ソーシャル・ワーカーや主任児童委員に

入ってもらおうと、会話や見守りもできる。デリケートな部分なので、地域課は入り込むことができないと思う。そういった関係者、できる人に入ってもらおうと前に進むと思う。

○委員

専門家のネットワーク、チームで解決するやり方でよいと思う。

○委員

地域課として何を発展させようとしているのか。何を目指そうとしているのか。子どもの居場所の問題、生活困窮の問題などを知ってもらう場づくりをしているのか。地域が子どもに会える場・仕掛けが必要である。地域を巻き込むという言い方をしてはだめで、寄り添わせてもらうということである。

▲課長（立花地域課）

私達も立花で居場所づくりをしているが、場所を開け続けていることが大事と思っている。場所を開け続けることで、専門家に繋いでいったりすることもできると考えている。

○委員

園田の事例でもそうだが、生涯学習プラザをどのようにしていきたいと考えているのか。どうして現役世代の人を集めていきたいのか。

▲課長（園田地域課）

園田東学習プラザは、新しくできたばかりである。ただ、バス停からも遠かったり、アクセスが悪い。その場所に、来ていただくには何かしらの仕掛けが必要と考えている。園田地区には地域のリーダーがたくさんいらっしゃる。この方々が引退されたら次のリーダーがいらないというのが現状。若い方に、まず園田東生涯学習プラザに来ていただいて、それをきっかけに、次に繋げていきたいと考えている。

○委員

生涯学習プラザについて前から疑問がある。人を集めたいのか、人が集まるかどうか分からなくても継続していくのか、どちらを優先しているのかと思う。人を集めるイベント等では、確かにその一瞬は人が集まるが、その後は、そのイベントの参加者は生涯学習プラザに来るわけではない。0人でも少しの人でも来る、講座等を継続して続けていくこともありなのではないかと思う。人を集めようとだけしていくと、行きたくなる生涯学習プラザにはならないかと思う。各小中学校などに出向いて講座のことを伝えれば、尼崎の人は行きたいなら遠くても自転車で行く。

▲課長（立花地域課）

一緒に作っていくという仲間が増える場所をいかに作っていくかだと思う。来てもらうことが目的ではなく、そこから何か仲間が生まれて、お節介をしあったり、悩みを共有することができていけば、極論を言えば生涯学習プラザに来てもらわなくてもいいと思う。

○委員

園田地域課の事例では、若い人に来てもらおうと試みて、約30%の現役世代に来てもらうことができている。現役世代に来てもらって、よかった点は何か。

▲課長（園田地域課）

今回は、講座形式で実施して現役世代を集めることができた。ただ、そこから繋がりを作ることはできていないので、次回はその後ろも考えて繋がりをつくっていき、また来たいと思ってもらえるようにしたい。講座は楽しかったが参加者同士連絡もできないし、地域課のフェイスブックの案内もなかったとの意見をいただいたので、もう少し工夫できたと思う。今年もしようと思っており、担当者のモチベーションは高い。

○委員

「園田で集い、学び、つながる秋！プラザで学びWeek」事業の講座のプログラムを見ると学習メニュー方式で職員が講座を企画して実施しているが、社会教育の実践の分野では、学級という方式がある。1年間の内容は自分達で企画を考え、自分たちの学習の還元もする。社会的な課題のテーマでなくても面白いテーマで、若い人向けとするなら、ぐっと若く、中学生レベルのことをする。職員がそういう気分になってくれるとよい。

▲課長（立花地域課）

立花でも流しそうめんをしようという企画があった。コロナ禍で食事を伴うイベントはできないので、色々な品物を竹に流して持って帰ってもらった。普段来ることのない高校生と関わることができた。また、肝試しをしたいということで、高校生がハロウィン肝試しを企画している。そういった余白が大事だと思う。

○委員

プラザがいくつもあるので、どこに行くかは自由だと。急がば回れで、最初は大変だが、動き出したらすごい。

委員Bテーブル

(7) ポイントの説明 3地域（北部組 立花地域課、武庫地域課、園田地域課）

立花地域課、武庫地域課、園田地域課から各地域課の資料1「令和2年度 生涯学習に関する取組」、資料2「令和2年度 生涯学習に関する取組 振り返りシート」、資料3「着眼点シート」についてのポイント説明を各地域課5分間実施した

(8) 質問3地域

(9) 助言・発散3地域

○委員

「インクルーシブ講座」についてだが、あまチャレ（あまがさチャレンジまちづくり事業）の審査員をやっていたことがあり、尾浜地区はあまチャレ補助金でも多く手があがり、社会福祉協議会の連協などの組織ではなく「活動したがる人」が多いという印象がある。

▲課長（立花地域課）

確かに、市民企画委員を募集した際も尾浜の方が多かった。

○委員

「園田で集い、学び、つながる秋！プラザで学びWeek」に参加して、非常に楽しくて、新しい発見もあったが、それで終わってしまったことは残念だ。そこからの繋がりを作っていきたい。

▲課長（園田地域課）

せっかく来ていただいた方に、繋がりができず、アンケートをもらうだけになってしまった。残念だったので、次回は繋がりを作っていけるとよい。

○委員

「武庫西生涯学習プラザを活用した学校でも家でもない第3の居場所づくり」の事例についてだが、公民館が廃止となって、生涯学習プラザになる際に子どもの居場所を公民館が担っていたという話を聞いていた。今回、子どもの居場所作りができたとの話が聞けて非常にうれしく思ったが、反省点として本来必要としている子どもまで、アプローチできなかったと挙げられていた。アプローチの仕方や別の問題があったと感じているということか。

▲課長（武庫地域課）

小学校では「外出は学校区内で」と指導されている。生涯学習プラザが校区外にある児童・生徒は来づらい問題がある。

○委員

私が関わっている枚方市では「こども・地域食堂ネットワーク会議」を年数回程実施している。集まって話をするだけだが、アイデアの交換や課題なども共有できる。

▲課長（立花地域課）

プラットフォームについてだが、役所の会議スタイルでは「堅苦しい」と敬遠されてしまうので、そんな会議はしたくないと考えている。こんなやり方をすれば気軽に〇〇さんと呼び合える関係ができるなどのアドバイスがほしい。

立花地域課でもインスタグラムで発信しているが、あまり見てもらえていないのが現状だ。SNSを使ってたくさんの人に見てもらおう方法があれば教えてほしい。

○委員

市からできることなのかはわからないが、繋がりを作っていくことが大事なので、そのアカウントからフォローしたり、「いいね」をして繋がりを作っていけばいいと思う。

○委員

みんなの尼崎大学であった、答えを求めない、モヤモヤしていることを出し合う場合は、非常によかった。いろいろな情報が入ってくるし、答えを求めないことで参加しやすくなる。

○委員

誰かが仕切ろうとしなければ良い。仕切ろうとしなければ15分もすればアイデアは出てくる。茨木の商工会議所では、今日のようにいろいろな人が来て話をしている、その中心の専門指導員は当初は、司会進行をしようとしていたが、その時は上手くいかなかった。そこで、仕切ろうとせず、いち参加者として参加することで上手くいった例がある。

▲課長（立花地域課）

私たちもプラットフォームでは同様の方法を取るが、例えば「子ども」のことに興味がある人が集まる場にしようとする、子どものことを話さなければとってしまう。

▲課長（園田地域課）

そのプラットフォームに行く「きっかけ」は必要ないか。

○委員

必要ない。北千里の場合は250回やっている。面白い会になれば、面白いと思った人は来てくれるし、ほかの人も誘ってくれる。そうやって仲間を増やしていけばいい。

(10) ポイントの説明 3地域（南部組 中央地域課、小田地域課、大庄地域課）

中央地域課、小田地域課、小田地域課から各地域課の資料1「令和2年度 生涯学習に関する取組」、資料2「令和2年度 生涯学習に関する取組 振り返りシート」、資料3「着眼点シート」についてのポイント説明を各地域課5分間実施した

(11) 質問3地域

(12) 助言・発散3地域

○委員

「遊ぼう！学ぼう！小田夏祭り」の事例について、県立尼崎小田高等学校の生徒から相談を受けたということであるが、具体的には誰がどのように相談を受けたか。

▲課長（小田地域課）

地域担当職員が、県立尼崎小田高等学校が令和元年度に「あまおだ減災フェス」をやっている際に見に行き、先生と繋がり、生徒と顔見知りになった。その後に、生徒から高校ではなく違う場所で実施できないかとの相談があった。

▲課長（大庄地域課）

地域づくり活動支援事業補助金制度を県立尼崎西高等学校が活用したことで、声をかけてもらったことや、「大庄元気むら」の会議に以前から、出ていたことがきっかけとなった。

○委員

過去に小田地区でいどばた会議をさせてもらっていた。県立尼崎小田高等学校は地域貢献のプログラムが組み立てられ、かつ地域貢献クラブもあり交流しやすい。中央地域課の振り返りシートでモデル地区とあるのは、竹谷地区のことか。

▲課長（中央地域課）

竹谷地区のことである。社会福祉協議会の連協単位ですすめるのか、小学校区ですすめるのかという選択があったが、若い人との接点を考えるとPTAさんに入っていたきたいので、小学校区単位で実施した。

○委員

あまチャレの審査をさせてもらおうと、竹谷地区での過去の資料がたくさん出てくる。もともと竹谷地区は元気な場所である。この竹谷地区での事例を他で実施する戦略はあるか。

▲課長（中央地域課）

今回、インスタグラムで「竹谷小学校いどばた会議」を事後広報すると、それを見たPTAの方から、「私の地域でもやりたい」と声をかけていただいて、この会場である、中央北生涯学習プラザ（梅プラザ）にて、5のつく日にGO-5うめ！という、いどばた会議のようなことを実施している。

○委員

例えば、私の戦略としては竹谷小学校地区の実行委員会の中にほかの地域の方に入って「体験してもらおう」経験も良いかと思う。ほかの地域でもそのような事をやりたいと考える人はいると思うので、地域を超えたコラボレーションもありだと思う。

○委員

「竹谷小学校区いどばた会議」の企画の時に地域課の職員さんがお題や次第をつくろうとしたが、コーディネーターから却下された。お題や次第が無く、会は言いたいことを言い合うおもしろい会になったと思う。次第を作って、机をまっすぐ並べてする会議ではいけないと感じた。

○委員

お題を決めてではなく、思っていることを言い合うような形の方が発展していくのではないと感じた。

○委員

小田地区で過去にいどばた会議をしていたが時期が早すぎたかもしれない。今復活すればおもしろいかもしれない。

▲課長（大庄地域課）

大庄地区では、「既に内々でネットワークを持っている」ということから、何か連携を持ち掛けても「困っていない・やっているから」と広がり提案しづらい面もある。

○委員

一方で「つぶやき」は出ているのではないか。高齢化とか担い手不足であるとか。そこで、他地域での取組や好事例を見に行きませんかなど、生涯学習的要素でくすぐることも一つの方法と考えられる。その時にはオープンで、誰でも入れるようにすると、響く人が出てくるかもしれない。

○委員

「大庄元気むら」の立ち上げに関わった。この地域で本当にできるか不安だったが、公的でない立場もあり色々な団体に関われる器ができ、参画する人も多くなってきたことで、一安心はしている。

○委員

河内長野で、年2回役員の意見交換会をやっているが、一昨年に女性の役員限定で会議をした。最初は愚痴ばかりだったが、そこから話が盛り上がり、いつの間にか課題の本質に迫ることもあった。女性は男性とは違う意見を持っていることが多々ある。そこを取っ掛かりにすることもひとつの方法。町会長・副会長と行政は話をする機会が多いので、あえて実務者での連絡会も一つの手。このような参加者が「大庄元気むら」に関わっていく人になりえるのでは。

○委員

富松では「旧住民の輪に新住民が入りづらい」という課題があった。ここで特産の「一寸豆」を神前に奉納する祭りを行ったことで、多くの方が昔からこの土地に住んでいる方に「感謝」し、関係性が近づいたという例もある。尼芋奉納祭でも同様だった。

○委員

同じ富松で、昔から富松に住んでいる方に地域の歴史を語ってもらった。「富松城は水につからない場所」などと語ると、参加者（新住民）は自分の地域に安心感を持てるし、昔から富松に住んでいる方は「わしの言うことをよく聞いてくれる」となる。生涯学習（歴史）が、住民間の融和策となるケースは多い。

○委員

「竹谷小学校区いどばた会議」について、あまり年上の方の集まりに若い人は行きにくいと思う。年齢を25歳以下限定にするなどの方法も有効ではないかと思う。

○委員

年齢が高い人は、一つ下の世代には厳しい傾向にあるが、二つ下の孫世代には優しい傾向がある。

3 共通する課題について（審議・抽出）

○委員

ここからは、明後日の審議会で議論する事例を決めていきたいと思う。各テーブルで相談していただき、候補を2つ決めて欲しい。ということは、各テーブルで2つと2つで合計4つになる可能性もあれば、各テーブルが一致して合計2つの事例になるかもしれない。事例を選ぶポイントとしては、①全地域共通の課題を持つ視点②別地域での取組経験を学び合える視点③委員の専門的知見から助言したいと思える視点の3つがあります。この3つのポイントを意識して10分間時間を取るので各テーブル話合っ欲しい。

～各テーブルで10分間の話し合い～

○委員

Aテーブルでは大庄地域課事例、立花地域課事例を選んだ。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

Bテーブルからは大庄地域課事例、園田地域課事例が選ばれた。

○委員

よって、明後日の第3回生涯学習審議会では大庄地域課事例、立花地域課事例、園田地域課事例の3つの事例を深掘することになった。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

2つ連絡事項がある。1つは地域課に対してだが、明後日の第3回生涯学習審議会に今日いただいた意見をまとめて報告する時間を冒頭に作りたいと思う。2つ目は委員の皆様へのお願いで、明後日は「着眼点シート」についても項目、内容等の確認をお願いしたい。

○委員

第2回尼崎市生涯学習審議会を閉会する。

以 上